

## 2024年度 Intercultural Collaborative Learning (ICL)

### 単位互換履修生 募集要項

#### 1. ICLプロジェクトについて

東北大学、東京外国語大学、信州大学、大阪大学、神戸大学の5大学（ICL コンソーシアム）は、文部科学省大学の国際化促進フォーラム事業の支援を受け『国際共修ネットワークによる大学教育の内なる国際化の加速と世界展開（ICL プロジェクト）』を2021年度に開始しました。このプロジェクトは留学生と国内学生の協働を授業・活動に組み入れた国際共修（ICL）の授業実践を通じ国内外の機関と共有し、高度化、国際的通用性の向上を図りながら国内外に横展開することを目的としています。

本プロジェクトでは、ICL コンソーシアムが開講する6学際領域に関連する国際共修授業科目（ICL 科目）を単位互換可能な形で提供します。<sup>1</sup>これら大学に在籍する学生は、自身が在籍する大学（以下「在籍大学」という。）の定める範囲内で他大学（以下「開講大学」という。）のICL科目を履修することが可能です。単位互換履修生として履修を希望する方は、本募集要項に従い出願してください。

#### 2. 学修到達目標

本プロジェクトによる単位互換可能な授業交流を通じて、学生の国際的な学習体験の多様化と国・地域・大学を超えた学生ネットワークの形成・拡大を図り、国際性を重視し世界共通の課題の解決に挑む新時代のグローバル人材を育成します。授業では科目コンテンツの学修と文化的・言語的に多様な背景をもつ学生との意味ある交流（meaningful interaction）等を有機的に融合し、学びの質を高め、各学際領域に設定した学修到達目標の達成を目指します。

学際領域	学修到達目標
SDGs	持続可能な開発目標に対する理解を促進し、多様な視点で世界共通の課題に対する解決策を地球市民として提案する力を伸ばす
震災・復興	阪神・淡路大震災、東日本大震災の被害や減災・防災について学び、復興のプロセス・成果を世界に発信する力を身につける
異文化理解	言語・文化背景の異なる人々を理解・受容し、自文化をクリティカルに再考する中で、新しい価値観や創造力を身につける
産学連携・リーダーシップ	グローバルな環境で価値観の異なる人々とも協働し、課題発見・解決に能動的に関わりとうとするコミュニケーション力・行動力・リーダーシップを習得する
日本文化・社会	日本の文化・歴史・慣習・社会事情に深い造詣をもち、日本の魅力や課題を多角的な視点で分析・議論する力を身につける
地域社会との協働	地域社会の魅力や課題、また地域に暮らす人々を理解し、グローバルな視点で地域の発展につながる提案力・行動力を身につける

<sup>1</sup> 科目により単位互換が認められない場合があります。単位互換の可否については所属学部担当係に確認してください。また、各加盟校の成績通知日程が異なるため、単位互換に間に合わない場合があります。

### 3. ICL 科目（単位互換科目）

2024 年度は6つの学際分野から ICL 科目（日本語又は英語）を開講します。開講科目については、p. 5 の「2024 年度後期（2 学期）ICL 開講科目一覧」をご覧ください。また、各科目の詳細及びシラバスは [ICL プログラムウェブサイト](#) をご覧ください。科目によっては定員や対象学年（セメスター）が定められていることがあります。

### 4. 募集対象者

東北大学、東京外国語大学、信州大学、大阪大学、神戸大学に履修期間を通じ在学する学部学生となります。（**大学院生は対象外です。**）その他、学部相当の交換留学生（特別聴講学生）も各大学の取り扱いにより履修可能な場合がありますので、履修を希望する場合は、本学の窓口にお問い合わせください。  
※休学者は対象外となります。

### 5. 受講定員

科目により受講定員が定められており、履修希望者数が定員を上回る場合は開講大学での審査の結果、希望する科目の履修ができない場合があります。

### 6. ICL 科目履修までの流れ（申請方法）

ICL 科目の履修申請は、以下の手順で行ってください。

1. 下記 8「申請にあたっての確認事項」を確認する。
2. 履修を希望する授業科目を上記「3.ICL 科目(単位互換科目)」等を参照し決定する。
3. 所属学部の教務担当係に様式「ICL 単位互換履修申請届出書」※を提出する。  
※[グローバルラーニングセンター募集サイト](#)からダウンロード可能
4. 上記 3 の「届出書」を提出する際に、所属学部の教務担当係に ICL 科目を履修することについて許可を得る。
5. 所属学部の教務担当係より許可を得た後、[ICL 科目履修申請フォーム](#)から必要事項を入力する。
6. 授業科目履修の可否について下記「15.問い合わせ先」に記載の東北大学担当事務局から受理する。
7. 開講大学の案内に従い、ICL 科目の履修を開始する。

### 7. 申請期限

各学期の ICL 科目の履修申請期限は、以下のとおりです。

- 後期（二学期）：2024 年 9 月 2 日（月）正午

## 8. 申請にあたっての確認事項

事前に以下の点を確認のうえ履修申請をしてください。

- 履修を希望する科目が指定する履修要件（例：英語力）を満たしているかをシラバス等で確認してください。
- 開講大学により授業時間が異なります。時間割の重複は認められませんので、履修を希望する ICL 科目と前後する本学の科目の授業時間に重複がないか必ず確認してください。また、履修単位数の上限を超えることのないよう、在籍大学のルールを確認してください。

## 9. 在籍身分

履修を許可された学生は開講大学の特別聴講学生の身分を有します。

## 10. 成績評価と単位認定

ICL 科目の成績評価は開講大学の定めによります。修得した成績の単位認定方法は、所属学部の教務担当係に確認してください。

## 11. 授業料等

ICL 科目を履修するための授業料・入学料・検定料等は徴収しません。その他、実習費・材料費等の有無についてはシラバス等で確認してください。

## 12. 受講方法

ICL 科目は、原則、オンライン授業となるため、受講の際に、各自パソコンやインターネット環境等が必要となります。

### 13. 授業開始日及び履修辞退手続き

各 ICL 科目開講大学の後期の学期（二学期）は下表のとおり開始します。ICL 科目の履修許可を得た後、原則として ICL 科目の履修辞退はできませんので、申請前に履修計画をしっかりと立ててください。やむを得ない事情により履修を辞退しなければならない場合は、下表に定める履修辞退届出期限までに下記 15 に記載の在籍大学問合せ先へ届け出てください。科目を開講する大学によって、履修辞退届出期限が異なるので留意してください。

科目	後期の学期（二学期）開始日	履修辞退届出期限 (在籍大学の担当窓口へ提出)
東北大学開講科目	2024 年 10 月 1 日	2024 年 10 月 9 日
東京外国語大学開講科目	2024 年 10 月 1 日	2024 年 10 月 14 日
信州大学開講科目	2024 年 9 月 30 日	2024 年 10 月 15 日
神戸大学開講科目	2024 年 10 月 1 日	2024 年 10 月 9 日

【例：東北大学生が信州大学が開講する科目の履修辞退を行う場合】

東北大学生は、下記 15 に記載の東北大学問合せ先（教育・学生支援部留学生課 ICL プロジェクト事務局）に 2024 年 10 月 15 日までに届出る必要があります。10 月 16 日以降は、信州大学が開講する科目の履修辞退はできません。

### 14. 公欠

公欠については開講大学の定めによります。

### 15. 問合せ先

本プロジェクト並びに ICL 科目の履修等に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

大学	部署	メール
東北大学	教育・学生支援部留学生課 ICL プロジェクト事務局	<a href="mailto:icl-admin@grp.tohoku.ac.jp">icl-admin@grp.tohoku.ac.jp</a>
東京外国語大学	学務部教務課教務係	<a href="mailto:kyoumu-kakari@tufs.ac.jp">kyoumu-kakari@tufs.ac.jp</a>
信州大学	グローバル化推進センター	<a href="mailto:icl-shinshu@shinshu-u.ac.jp">icl-shinshu@shinshu-u.ac.jp</a>
大阪大学	国際部国際学生交流課留学生交流係	<a href="mailto:icl-osaka@ml.office.osaka-u.ac.jp">icl-osaka@ml.office.osaka-u.ac.jp</a>
神戸大学	学務部国際交流課留学生支援グループ	<a href="mailto:stdnt-ryulife@office.kobe-u.ac.jp">stdnt-ryulife@office.kobe-u.ac.jp</a>

## 2024年度後期（2学期）ICL 開講科目一覧

2024年度後期（2学期）に開講予定のICL科目一覧となります。開講科目の詳細及びシラバス等は、[ICLプログラムウェブサイト](#)に掲載しますので確認のうえ申請を行ってください。

### 【後期（2学期）開講科目】

曜日・時間 ※1	学際領域	開講大学	開講科目名	講義題目等	教授言語	単位数	定員※2
月 8:50-10:20	産学連携・ リーダーシップ	東北大学	キャリア関連学習	日本企業の人事管理システムとキャリアデザイン講座	英語	2	20
月 16:20-17:50	異文化理解	信州大学	グローバルコミュニケーション論	グローバルコミュニケーション論	日本語	2	
火 13:00-14:30	異文化理解	東北大学	多文化 PBL	言語コミュニケーションとパフォーマンス	英語	2	5
火 16:20-17:50	日本文化・ 社会	東北大学	国際教養特定課題	日本の大学と大学生	英語	2	5
水 12:40-14:10	日本文化・ 社会	東京外国語 大学	歴史の中の日本を知る 2	日本思想史	英語	2	10
木 17:00-18:30	異文化理解	神戸大学	グローバルリーダーシップ育成基礎 演習	グローバルリーダーシップ育成基礎 演習	日本語/ 英語	2	最多 10
金 14:40-16:10	産学連携・ リーダーシップ	信州大学	グローバル人材論 (「グローバル」マインド養成)	グローバル人材論 (「グローバル」マインド養成)	日本語	2	各大学 3

※1：各大学の時間割及び学年歴は[こちら](#)よりご確認ください

※2：定員は ICL コンソーシアム加盟大学からの参加可能人数。定員の記載がない科目は、定員を特に定めていない。

## 【2024年度後期】ICL科目\_読み替え科目リスト

### ICL開講科目

	開講科目名	講義題目等	担当教員	学際領域	教授言語	単位数	授業概要
東京外国語大学(後期)	歴史の中の日本を知る2 (Aspects of Japanese History 2)	日本思想史 (Japanese Intellectual History)	モリス MORRIS Jonathan	日本文化・社会 (Japanese Culture/Society)	英語	2	<p>本コースでは、日本の文化首都である京都と政治首都である東京について学びます。両都市は新しい権力基盤として設立され、日本の歴史と文化において主要な役割を担ってきました。そのため、両都市の成立に至った経緯が出発点となります。本講座では、このような歴史的背景と展開を説明した上で、京都と東京の経済、宗教、建築、インフラ、文化などを概観します。</p> <p>特に地図を中心とした実物資料や物質文化の活用は重要な教育方法です。学生は、東京または京都の一つの地域について、地図資料に基づきレポートを執筆します。観光、出版、映画、音楽、美術、文学など、各時代の都市の文化的影響が紹介されます。伝統的な工芸品や消費財も取り上げられます。また、京都と東京の過去と現在の食文化についても、それぞれ1回授業内で取り上げます。学生は、ガイダンスを受けながら、関連するテーマを選んで研究エッセイを作成します。</p> <p>This course examines Japan's cultural capital Kyoto and its political capital Tokyo. Both cities were established as new power bases for elites, and the leading roles they have played in Japanese history and culture could very easily have been held by other locations. The circumstances that led to their founding are thus the necessary starting point. With the general historical background and development explained, this course goes on to provide a survey of the economy, religion, architecture, infrastructure and culture of Kyoto and Tokyo.</p> <p>The use of realia and material culture, particularly maps, is a key teaching method. All students will write a report on an area of Tokyo or Kyoto using cartographic materials. The wider cultural impact of the cities is presented, with reference to tourism.</p>
信州大学(後期)	グローバルコミュニケーション論 Global Communication	グローバルコミュニケーション論 Global Communication	仙石 祐	異文化理解 (Multicultural Awareness)	日本語	2	<p>様々な分野でグローバル化が進んでいる背景を押さえたうえで、今後どのようにグローバル化が展開していくか、その中でどのような人材が求められているのかについて学ぶ。授業の前半は「留学＝自分の国を離れて学ぶこと」をテーマとし、後半は「海外でのキャリア＝自分の国を離れて働くこと」をテーマとする。また各単元の最終課題に有益な話題を提供してくれる。現場での実務経験がある外部スピーカーによる講演も予定している。</p> <p>After understanding the background of globalization in various fields, students will learn how globalization will develop in the future and what kind of human resources will be required in this context. The first half of the course focuses on the theme of "studying abroad = learning away from one's own country," while the second half focuses on the theme of "careers abroad = working away from one's own country." There will also be lectures by outside speakers with practical experience in the field who will provide useful topics for the final project of each unit.</p>
信州大学(後期)	グローバル人材論	「グローバルリーダーシップ」マインド養成	永田 浩一	産業連携・リーダーシップ (Business Partnership/Leadership)	日本語	2	<p>本授業では、長野県内の産学官それぞれの立場でグローバル化対応に向けて実施している活動、その課題を理解し、解決の糸口を模索し、将来展望を思考する。地元企業や行政におけるグローバル環境で活躍されている方をゲストスピーカーとして招き、体験談を聞くことにより、将来、企業等に就職してグローバルな環境で働く際に必要とされる素養を身につける準備をする。他者(留学生も受講予定)と意見交換しながら協働で課題に取り組むグループワークを頻りに設ける。</p> <p>This course aims to provide opportunities for students to learn about cases of global environments in industry, academia, and local government in Nagano Prefecture through lectures. Additionally, we will discuss research issues for Global and Local Human Resource Management. Through lectures, we will be able to learn how people can work together beyond borders and boundaries in the age of globalization. Moreover, we highlight the diversity and inclusion(D&amp;I) in global and local business.</p>
神戸大学(後期)	グローバルリーダーシップ育成基礎演習 (Introductory Seminar for Promoting Global Leadership)	グローバルリーダーシップ育成基礎演習 (Introductory Seminar for Promoting Global Leadership)	黒田 千晴、ハリソン・リチャード	異文化理解 (Multicultural Awareness)	日本語・英語	2	<p>本授業は、一般学生と留学生が第30回神戸大学国際学生交流シンポジウムの企画、立案、準備、運営を協働で行うプロジェクトベースの学習を通して、多様な他者と協働する際に必要な異文化間能力、リーダーシップ、コミュニケーション能力を涵養することを旨とする。本授業は、日本語・英語のバイリンガルで行う。本授業は、神戸大学の学生に対しては対面で実施し、ICL履修学生に対してはZoomを用いた遠隔リアルタイムを併用するハイフレックスの形式で実施する。</p> <p>This class is aimed at developing leadership and intercultural competency needed for working with other people from different backgrounds, through planning, preparing and implementing the 30th Kobe University International Students' Symposium with home and international students. This is a bilingual class using Japanese and English. This class will be conducted in a high-flex format with face-to-face for Kobe University students and remote real-time using Zoom for ICL students.</p>

### 相当する東北大学の授業

#### 旧カリ

開講科目名	単位数
日本社会・文化B	2
異文化理解	2
グローバルキャリアA	2
グローバル人材基礎演習	2

### 相当する東北大学の授業

#### 新カリ

開講科目名	単位数
文化と社会の探求	2
多文化特定課題	2
キャリア関連学習	2
グローバル学習	2